

2023年11月14日

静岡市葵区鷹匠一丁目1番1号
静岡鉄道株式会社

静鉄グループ 2023年度 中間連結決算概況について

中間期で過去最高益を更新 自動車販売事業、交通事業、レジャー・サービス事業が回復

◇連結決算概況

当連結会計年度においては、自動車販売事業でのメーカーからの車両供給が正常化に向かったことや、新型コロナウイルス5類移行後に交通事業やレジャー・サービス事業を中心に、利用者数が回復基調であったことなどから、当中間期の売上高は増加し、835億6百万円（前中間期比16.5%増）となりました。

利益面では、各事業粗利益の増加などにより、営業利益は28億9百万円（前中間期比483.9%増）、経常利益は25億83百万円（前中間期比757.2%増）、中間純利益は、16億90百万円（前中間期比1,318.5%増）となりました。

なお、営業利益と経常利益、中間純利益については過去最高を更新しました。

◇2024年3月期の見通し

2024年3月期につきましては、自動車販売事業での車両供給の正常化継続や交通事業の利用者数が回復傾向であること、レジャー・サービス事業における静岡ホテルブレジオ大阪心斎橋の開業等により、売上高は1,654億20百万円（前期比7.0%増）を見込んでいます。また、営業利益は24億87百万円（前期比29.3%増）、経常利益は19億41百万円（前期比18.9%増）、当期純利益は18億93百万円（前期比125.2%増）を見込んでいます。

当社グループは、今後もお客様に安全・安心・快適をお届けする為の取り組みを推進するとともに、変化する事業環境に対応し、生活ニーズの多様化に応える事業活動を実施してまいります。

<添付資料>

- ・ 静鉄グループ 2023年度中間 事業セグメント別概況
- ・ 静鉄グループ 2023年度 中間連結決算指標

この件のお問い合わせは下記へお願いいたします

経営管理部

- グループ事業課：石垣（いしがき）、花崎（はなざき）
- 直通電話：（054）254-5116
- FAX：（054）273-0658
- Eメール：group@shizutetsu.co.jp

総務部

- 総務課：國松（くにまつ）
- 直通電話：（054）254-5129
- FAX：（054）255-8816
- Eメール：m.kunimatsu@shizutetsu.co.jp

静鉄グループ 2023 年度中間 事業セグメント別概況

当社グループは、交通事業、流通事業、自動車販売事業、不動産事業、レジャー・サービス事業、建設事業の6つの事業セグメントで構成されています。事業セグメント別の概況は以下のとおりです。

・交通事業

鉄道事業では、輸送人員が5,390千人(前中間期比+278千人)となり、前中間期と比べて旅客運輸収入が増加しました。また、限定企画乗車券を販売したほか、安全な輸送を確保し続けるため、2023年4月より旅客運賃改定を実施しました。

索道事業の日本平ロープウェイにおいては、大河ドラマ放送の影響により輸送人員が443千人(前中間期比+275千人)となり、前中間期と比べて旅客運輸収入が増加しました。また、2023年4月より、CO2排出量ゼロの電気による運行を開始しました。

乗合バス事業のしずてつジャストラインでは、輸送人員が13,733千人(前中間期比+836千人)となり、前中間期と比べて乗合運送収入が増加しました。また、2023年7月15日から8月27日まで、「南アルプス登山線」を運行しました。

タクシー事業の静鉄タクシーでは、運転士の増加に伴い、前中間期と比べて運送回数が増加しました。また、2023年7月より燃料電池自動車を県内で初めて導入したほか、原材料価格の高騰等に対応するため、2023年9月より運賃・料金を改定しました。

以上の結果、交通事業の営業収益は、67億76百万円(前中間期比10.8%増)、営業利益は、△70百万円(前中間期比-)となりました。

・流通事業

スーパーマーケット事業の静鉄ストアでは、LINE ミニアプリ等を活用した販促強化や一品単価の増加、昨年度に小型店舗「KITE-GO」が3店舗増加したことなどにより、前中間期と比べて店舗売上が増加しました。

食堂売店事業の静鉄リテイリングでは、2023年6月より神奈川県にて「箱根関所旅物語館」ほか2施設の受託運営を開始したほか、2023年8月には「シャトレーゼ牧之原榛原店」がオープンしたことで、前中間期と比べて観光売店事業売上が増加しました。

以上の結果、流通事業の営業収益は、230億46百万円(前中間期比4.6%増)、営業利益は、3億4百万円(前中間期比53.4%増)となりました。

・自動車販売事業

自動車販売事業のトヨタユナイテッド静岡では、メーカーからの車両供給が正常化に向かったことにより、新車販売台数が7,947台(前中間期比+1,856台)となりました。中古車販売台数については、4,807台(前中間期比+711台)となりました。また、2023年7月には、富士宮市朝霧にてオートキャンプ場「朝霧 Camp Base そらいろ」をオープンし、お客様に対して車のある楽しい生活の提案に努めたほか、2023年9月には最新の省エネ設備や災害対応機能も備えた、最大規模の基幹店となる「草薙店」をオープンしました。

自動車リース事業のトヨタレンタリース静岡では、旅行客の増加やインバウンドの増加により人流が回復したことに伴い、レンタカー稼働台数が増加しました。

以上の結果、自動車販売事業の営業収益は、408億70百万円(前中間期比28.6%増)、営業利益は、18億16百万円(前中間期比233.2%増)となりました。

・不動産事業

不動産販売事業では、分譲マンションの販売において新規開発物件がなかったことから、前中間期に比べて引渡し戸数が減少しました。新築建売住宅においては、「エバースクエア馬淵三丁目」のほか3物件が好評のうち完売しました。また、電子契約取引を実施することにより、お客様の利便性向上に努めました。

ショッピングセンター事業の静鉄プロパティマネジメントでは、2023年9月から2024年初夏にかけて、2021年以来となる大規模リニューアルを段階的に実施しています。また、開業から12周年を迎え、イベント・キャンペーンなど記念企画を行い、各テナントの売上増加につなげたことから、前中間期と比べて館内売上高が増加しました。

以上の結果、不動産事業の営業収益は、51億37百万円(前中間期比7.8%減)、営業利益は、5億12百万円(前中間期比22.8%増)となりました。

・レジャー・サービス事業

ビジネスホテル事業では、全7施設において前中間期と比べて稼働率が上昇し、平均稼働率は81.8%（前中間期比10.5pt増）となり、客室平均単価も増加しました。

情報サービス事業の静鉄情報センターでは、小売店に特化したクラウドサービス型販売管理システム「iSYS」の販売等により商品売上高が増加しました。

以上の結果、レジャー・サービス事業の営業収益は、43億28百万円(前中間期比6.1%増)、営業利益は、48百万円(前中間期比-)となりました。

・建設事業

建設事業の静鉄建設では、清水谷津浄水場集水井築造に伴う場内配管工事等の施工等により、建設事業の営業収益は、33億48百万円(前中間期比59.5%増)、営業利益は、2億18百万円(前中間期比200.7%)となりました。